



Blue
Planet
Prize

プレスリリース - 2012年2月10日（金）

ブループラネット賞歴代受賞者が、持続可能な開発を実現するために抜本的転換を要請

持続可能な開発における世界の主要な科学者と専門家のグループは本日、人類が環境危機に取り組み、人類の幸福を高めることを可能とする政策や制度への緊急の転換を求めました。

ブループラネット賞の歴代受賞者で構成されるグループがロンドンに結集し、2月20日から2月22日の期間、ナイロビで開催される国連環境計画（UNEP）管理理事会特別会合本会議で発表する論文を取りまとめました。

本日、国際環境開発研究所（IIED）での記者会見で、受賞者を代表してワトソン博士は、論文の主要な結論と提案を発表しました。

本論文は、環境および開発の重要な課題に対する解決法の転換を強く求めます。地域および世界的な環境を保護し、経済を刺激し、貧困層の暮らしを向上させるために必要な政策、技術および行動の変革を重点的に取り上げています。

本論文「環境と開発への課題：緊急に成すべき行動（*Environmental and Development Challenges: The imperative to act*）」は、6月にブラジルで開催される「国連持続可能な開発会議（リオ+20）」に先立って、UNEPで発表されます。

「気候変動や生物多様性の消失、貧困問題を解決するには、現在、世界が直面する問題を早急に解決する必要がある」と英国 環境・食糧・農村地域省（DEFRA）チーフアドバイザーであり、2010年ブループラネット賞受賞者、ワトソン博士は語りました。

シュタイナー国連事務次長兼 UNEP 事務局長からは以下のような言葉が寄せられました。

「ブループラネット賞の歴代受賞者の論文は、食糧や水、エネルギー、さらに人間の安全保障を確保するために、人為的気候変動や生物多様性の損失、生態系サービスの劣化を抑制する行動を起こすべきであると政府や社会に呼びかけています。私は、ワトソン教授を始めとする受賞者たちが、解決策を提示しつつ、発展に伴う主要な難問に如何に取り組むべきかのビジョンを明確にしてくれたことに謝意を表します。つまり受賞者たちは、国境を問わずに無理なく環境型経済を成長させ、雇用を創出し、貧困から脱出するには、政策や技術、ライフスタイルの変革が不可欠であると強調しています。」

本論文をまとめるため、ロンドンに集まったのは下記のブループラネット賞歴代受賞者です。

- ボブ・ワトソン博士、英国 環境・食糧・農村地域省（DEFRA）チーフアドバイザー
- ロバート・メイ卿、イギリス政府の元首席科学顧問、英国王立協会会長
- ポール・エリック博士、スタンフォード大学
- ハロルド・ムーニー教授、スタンフォード大学
- ゴードン・ヒサシ・サトウ博士、マンザナール・プロジェクト代表
- ジョゼ・ゴールデンベルク教授、ブラジル・サンパウロ州環境長官、1992年リオ地球サミット時には、ブラジルの暫定環境長官を務める
- エミル・サリム博士、元インドネシア環境大臣
- カミラ・トルミン博士、国際環境開発研究所（IIED）所長
- バンカー・ロイ氏、ベアフット・カレッジ創設者
- 真鍋淑郎博士、プリンストン大学上級科学者
- ジュリア・マートン＝ルファール氏、国際自然保護連合（IUCN）事務局長
- サイモン・スチュアート博士、国際自然保護連合（IUCN）の種の保存委員会議長
- ウィル・ターナー博士、コンサベーション・インターナショナル（CI）、保全プライオリティおよびアウトリーチ担当バイスプレジデント
- カールヘンリク・ロベール博士、スウェーデン「ナチュラル・ステップ」創設者

ブループラネット賞について

旭硝子財団は、地球環境の修復を願い、地球サミットが開催された1992年（平成4年）に、地球環境問題の解決に向けて科学技術の面で著しい貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞「ブループラネット賞」を創設いたしました。

賞の名称ブループラネットは人類として初めて宇宙から地球を眺めた宇宙飛行士ガガーリン氏の言葉「地球は青かった」にちなんで名付けました。この青い地球が未来にわたり、人類の共有財産として存在しつづけるように、との祈りがこめられています。

本賞は、2012年に創設20周年を迎えます。旭硝子財団は、この節目の年が環境に優しい社会の構築に向けた取り組みの新たなスタートとなるよう願っています。

歴代受賞者のリストは、当財団ホームページ（<http://www.af-info.or.jp>）でご覧いただけます。